

10年後を見据えたロシアと今後の日ロ関係

ロシア・NIS委員会(多田幸雄委員長)では、2月7日～12日の日程で、モスクワとニジニーノブゴロドを訪問した。両地のイノベーション・センターの訪問を含め、経済構造の転換を図るロシアの現状を視察した。



スコルコボ MBA スクール



訪口中の前原外務大臣(当時)と。

ニジニーノブゴロド州
イワノフ副知事と面談

(役職は開催時)

今回のミッションの基本テーマは、「10年後を見据えたロシアと今後の日ロ関係」とし、具体的には、「ロシアが中長期的に、現在の資源エネルギーに過度に偏った経済構造から、イノベーション・ハイテク産業・自動車等の製造業にも支えられた経済構造に転換できるのか」「ロシアがこうした経済構造に転換していく中で、日ロ経済関係はどうあるべきか」に焦点が当てられた。

ミッションは、図らずも北方領土問題をめぐって日ロの緊張が高まる中、行われた。かつて冷戦時代での米ソ対立の中ではなく、日ロの二国間関係での対立は、日本にとって厳しい局面であり、重大な問題であるといえ

る。こうした中、外務省からの協力を得た訪問は有意義なものとなった。

スコルコボ計画に象徴されるロシア政府の「近代化」政策は、単に経済にとどまるものでない国運を賭けた基本政策と捉えられている。欧米企業が一定の関与をしようとしている中、日本企業もよく検討した上で、何らかの形で参画することが望ましいと考える。自動車関連企業やユニクロ等への訪問により、ロシアの経済発展に伴う消費市場の高度化が感じられた。依然として汚職や腐敗は深刻であるが、「資源」だけでなく、「イノベーション、製造業、消費市場」としてのロシアの重要性への認識が一層深まったミッションとなった。

ロシアミッション日程 (2011年2月7日～12日)

- 2月7日(月)
 - モスクワ着(ドモデボ空港)
 - 河野雅治日本大使との面談
- 8日(火)
 - グセフ・ポロネジ州副知事等と面談
 - アン経済発展省投資政策局次長等と面談
 - クズネツォフ産業家企業家同盟国際局長等と面談
 - モスクワ日本センター訪問(種村博雄所長)
- 9日(水)
 - スコルコボ基金関係者との円卓会議
於:スコルコボMBAスクール
テーマ:教育とイノベーション、日ロ協力の可能性
挨拶:ヴァンホナセル・スコルコボMBAスクール学長
 - トヨタ自動車訪問
 - トヨタ自動車販売店訪問
- 10日(木)
 - ニジニーノブゴロド着
 - イワノフ副知事と面談
 - 大同メタルロシア訪問
- 11日(金)
 - TRM(自動車部品、ティラドとの合併企業)訪問
 - GAZ自動車訪問
 - サロフ・テクノパーク訪問(管理会社、インテル等)
- 12日(土)
 - モスクワ着
 - ユニクロ店訪問
 - 前原誠司外務大臣と面談

団員名簿(敬称略) (役職は開催時)

団長/ロシア・NIS委員会 委員長

多田 幸雄(双日総合研究所 取締役社長)

団員

嘉納 裕躬 副委員長(ティラド 取締役社長)
 中村 雅信 副委員長(BNPパリバ証券会社 東京支店 会長)
 平野 英治 副委員長(トヨタファイナンシャルサービス 取締役副社長)
 金澤 薫(日本電信電話 取締役副社長)
 林 明夫(開倫塾 取締役社長)

急速なイノベーションを実感 転換点にあるロシアの経済構造

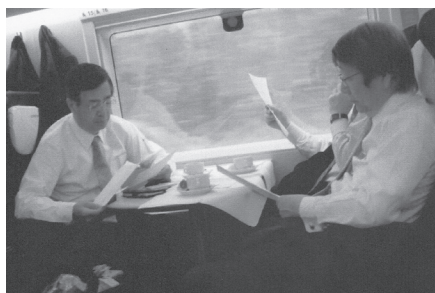
ロシアミッション団長

多田 幸雄 委員長 (双日総合研究所 取締役社長)

ロシアの経済構造は、2008年の金融危機を機に劇的に転換しつつあります。従来までの、過度に資源エネルギーに偏った経済から、ハイテク・IT・自動車といったイノベーション型産業中心の経済へと、官民一体で改革が進められています。

われわれ日本の経済人もまだロシアを「極東・資源中心」と見ていたのではないのでしょうか。今回のロシア・NIS委員会のミッションでは、10年後のロシアを見据え、今までわれわれが目を見ていなかった産業分野、地域を見聞することを目的としました。

「近代化」の推進役として、ロシア版シリコンバレー計画ともいえるべき「スコルコボ計画」が2010年から始まっています。当計画の主体である「スコルコボ基金」関係者との円卓会議を通じ、思いのほか急ピッチで計画が進んでいると実感しました。欧米企業による参加表明も相次いでいます。また、ニジニーノブゴロド州南部の都市・サロフのテクノパークを訪れた際には、インテル等、世界的な先端企業が多数進出していることに驚嘆しました。同都市にある、旧



高速列車の車内。ネットもWi-Fiでつながる。

ソ連時代からの原子力センターの元研究スタッフらが、今度は民間の基礎研究開発で、その力を発揮しているのです。

2008年金融危機で大打撃を被ったロシア自動車市場ですが、これがきっかけとなり、国内メーカーは古い国営企業の体質を一掃し、製品の国際競争力向上を進めています。若い30歳代の層に高級車の人気があるなど、ロシアのマーケットは魅力的です。同時に、きめ細かな品質管理・サービスを誇る日本の自動車関連企業は、ロシアで躍進できる潜在性を秘めているでしょう。

ロシアには、「近代化」に向けて経済構造を変えなければ、世界の中で遅れをとってしまうという危機感があり、至る所で本腰を入れてイノベーションを行っています。モスクワからニジニーノブゴロドに移動する際に高速列車「サブサン号」で4時間かかります。でも、車内は4人掛けの席にテーブル付きで、ネットもWi-Fiでつながる。非常に居心地のよい空間でした。これもイノベーションの成果なのかもしれません。一方で、依然として汚職や腐敗が深刻な問題となっています。あまりにも細



サロフテクノパーク



密である法制等がその一因のようですが、こうした体質を改善できるかが課題です。本ミッションで、ロシア経済の光と影を肌で実感できたのが、最大の収穫であったといえます。

ロシアの現状はほとんど日本に伝わっておらず、また、北方領土問題といった緊張関係もあり、日本企業はロシア進出に消極的です。しかし、ロシア・イノベーションは急速かつ長期間続くものと予想され、かつ、現地の人々の対日感情も悪くありません。街にはお寿司屋さんもたくさんあって、ちょっとした日本ブームがあるくらいです。日本としては、粘り強くロシアと交渉するとともに、経済、文化面での一層の交流を推進すべきでしょう。

今回のミッションは、これまで以上に外務省に協力いただき、最終日には、訪口中の外務大臣との面談も実現できました。「日口経済協議会を円卓会議のような形で実現したい」「官民が情報共有を進め、日口経済連携を深化させるべき」など有効な意見交換を行うことができ、とても有意義なミッションでした。詳細はぜひ報告書をご覧ください。